

## 平成25年度共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名 和文：跡津川断層周辺での地殻活動定常観測点の高性能化  
英文：Integration of crustal activity observation around the Atotsugawa fault

### 研究代表者

京都大学防災研究所・准教授・大見士朗

### 参加研究者

東京大学宇宙線研究所・准教授・早戸良成

京都大学防災研究所・助教・加納靖之

京都大学防災研究所・教授・Jim Mori

### 研究成果概要

本共同研究は、神岡宇宙素粒子研究施設のネットワーク回線を利用して、神岡鉱山内に設置した高感度地震計、地殻変動・地下水観測装置等のデータをリアルタイム伝送し、跡津川断層を中心とする中部日本の地震活動や地殻活動のモニターすることを目的としている。

高感度微小地震観測装置は、NTP同期方式のデータレコーダであり、NTPの中継および回線切断等に備え現地収録機器を設置して、GPS受信ができない環境下で正確な時刻スタンプをつけた地震波形データのリアルタイム伝送を継続している。このデータについては、現在も時刻データの信頼性のチェックを行っており、必要によっては、さらなる時刻精度の向上を図る必要がある。平成25年度には、GPS信号を坑内に伝送するための経路の検討をおこなった。

また、ボアホール歪計および間隙水圧データについても、本共同研究によるネットワークを利用して、京都府宇治市の京都大学防災研究所への準リアルタイム伝送をおこなう、地球潮汐による歪変動や地下水の増減による季節変化などをモニターしている。世界各地で発生したいくつかの大地震の発生直後にデータを確認することができ、解析および機器メンテナンス方針の決定に役立った。東北地方太平洋沖地震をはじめとするいくつかの地震による地震時および地震後の地殻変動およびひずみ地震動の解析から、鉱山内での透水係数およびその変化の把握を試みた。

整理番号 B05